英国・アイルランド文学とパンデミック：ペストとスペイン風邪を中心に

その１　はじめに

城西大学　語学教育センター
伊東裕起

生病老死、とはいうものの・・・

人は病を忘れやすい　特に疫病は忘れやすい

近代日本における「結核」などロマン化される場合もあるが

★スペイン風邪（1918年インフルエンザ）を世界は忘却した

★実は「疫病の王様」ペストさえも忘れられていた

スペイン風邪
(1918年インフルエンザ)

全世界で5億人感染　死亡者数は4,000万（WHO）～1億人以上とも
20代～30代の死者率が高い

日本:内務省統計　感染2380万4673人　38万8727人死亡
速水融の統計　内地45.3万人死亡

現在の人口に換算すると、100万人前後が死亡したことに

しかし日本を含め　世界はスペイン風邪を奇妙に忘れている

ペスト

腺ペスト　かつて（致死率50～60%）肺ペスト（致死率90%以上）　（石塚）

現在致死率8.2%程度（国立感染症研究所）
英語で the plague「あの疫病」と言えばペストを指す　疫病の王様

14世紀の欧州でのパンデミック：「黒死病」
死者7500万人～2億人

しかし「黒死病」の名がついたのは18世紀
本格的に研究が始まったのは　19世紀コレラの流行の際

ペストさえも人間は忘れていた

日本では・・・例えば

幕末のコレラ
江戸だけで約３万人死亡（高橋敏）　→攘夷につながる

アマビエを含む妖怪の流行

疫病除けとしての三峯神社信仰

・・・しかし、忘れてられていないか？

病と文学

なぜ人は病を、特に疫病を忘れるのか？

ヴァージニア・ウルフ
（スペイン風邪に罹患　後遺症に苦しんだ）

エッセイ「病むことについて」

なぜ病は文学のテーマにならないのか？
肉体より精神が大切だからか？
いや、理由のひとつは、語る言葉の欠如なのでは・・・？

確かに　病、特に疫病を扱った作品は少ない

確かに　病、特に疫病を扱った作品は少ない

しかし　文学だからこそ保ちえた疫病の記憶があり
文学だからこそ伝えることができるものがあるのではないか？

今回の講演では

ペストについて

ウィリアム・シェイクスピア『ロミオとジュリエット』（1595年前後）

スペイン風邪について

W・B・イェイツ「再臨」（1920年）

エマ・ドナヒュー『星のせいにして』（2020年）　　を扱います

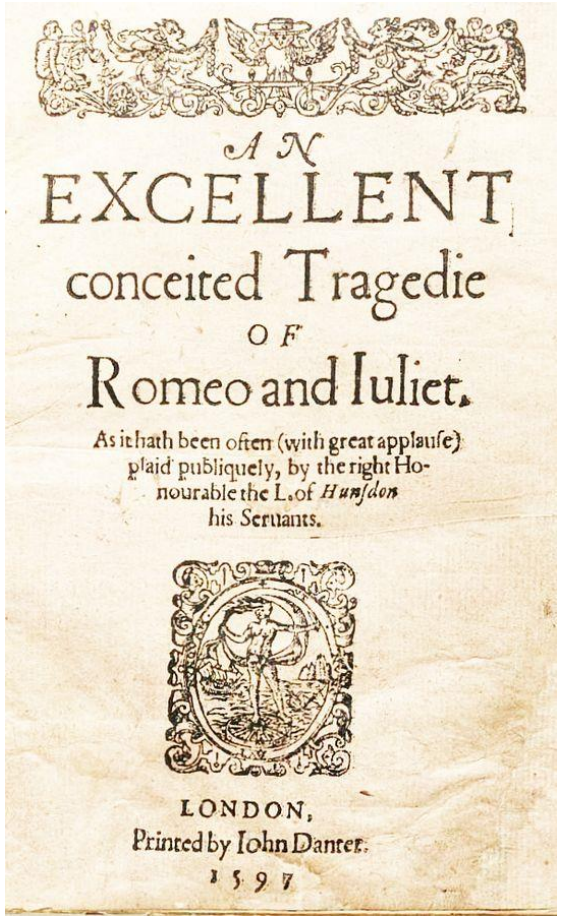
英国・アイルランド文学とパンデミック：ペストとスペイン風邪を中心に

その２
ロミオとジュリエット

城西大学　語学教育センター
伊東裕起

『ロミオとジュリエット』とペスト

ウィリアム・シェイクスピア
『ロミオとジュリエット』


AN
EXCELLENT
conceited Tragedie
OF
Romeo and Iuliet.
As it hath been often (with great applause)
plaid publiquely, by the right Ho-
nourable the L. of Hunsdon
his Seruants.
LONDON,
Printed by Iohn Danter.
1597

1595年ごろ初演

世界で最も有名なラブストーリーのひとつ

対立する２つの家の男女が恋に落ち
悲劇的な最期を遂げる

ペストとは

ペスト菌によって感染　「黒死病」
主にネズミノミによって媒介（感染動物の体液、患者からの飛沫も）

腺ペスト：ノミに刺された場所に関係したリンパ節にペスト菌が感染
リンパ節が大きく腫れあがり、高熱や皮下出血で黒ずむ

敗血症型ペスト：傷口から直接ペスト菌が入った場合　ショック症状
リンパ節の症状なしで全身が黒ずむ

肺ペスト：肺に直接ペスト菌が入った場合　重篤な肺炎

いずれも高確率で命を落とす

ウィリアム・シェイクスピアの時代（1564－1616）

ペストの流行が３度繰り返された
1563～4年　1592～93年　1603～11年

生まれた年には故郷で町民約2000人のうち237人死亡
（幼い頃に免疫を得た可能性も？）

演劇が人気であると同時にバッシングされた時代
罪の原因　疫病の原因

週に死者30人以上＝公演禁止　　劇作家と劇団の苦難

おおまかなあらすじ：家の対立

舞台：イタリアのヴェローナ

モンタギュー家　　一人息子　ロミオ　（ジュリエットより年上）

↑

対立

↓

キャピュレット家　一人娘　ジュリエット（14歳）

おおまかなあらすじ

とある女性への片想いに沈むロミオ
友人とキャピュレット家の仮面舞踏会に
　→ジュリエットとの出会い　→　二人は熱烈な恋に

修道士ロレンス　二人を秘密裏に結婚させる　家同士の和解のため

争い発生　ロミオの親友マキューシオが
　　キャピュレット家の人間に殺される
　　ロミオが仇を討ち　ロミオは追放刑に
　　ジュリエットは親戚と結婚させられることに

おおまかなあらすじ

ジュリエット　ロミオ以外と結婚したくない

修道士ロレンス
　　ジュリエットに仮死状態になる薬を使うことを提案
　　→これで親戚を欺ける

しかし連絡がうまくいかず…
　　ジュリエットが死んだと思ったロミオ　→自殺
　　ジュリエット　目覚めたが　ロミオの後を追う

『ロミオとジュリエット』に表れたペスト表象

結婚相手を欺くためにジュリエット　仮死状態になる薬を飲む
そのことを知らせる手紙が届かず
ジュリエットが死んだと思ったロミオが自殺
ジュリエットも本当に自殺

なぜ手紙が届かなかったか？

→ペストの感染疑いのために隔離されたから

引　用

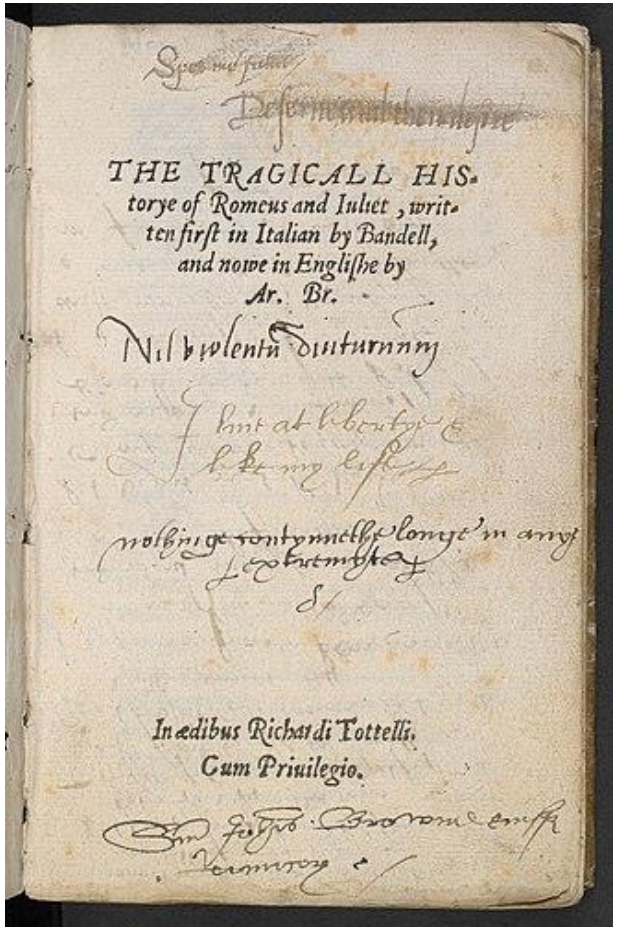
ジョン： 実は、同門の修道僧を探し
道連れになってもらおうといたしまして。
ちょうど町の病人を見舞っているところを
尋ね当てたのですが、町の検疫官に
我々二人が伝染病患者の出た家にいたとの疑いをかけられ
戸には封印をされ、一歩も外に出られなくなりました。
そんな訳で足止めを食ってマントヴァへは行かずじまい。

引　用

ロレンス：では、私の手紙は誰がロミオに？

ジョン： 届けることができずに――まだここに――
そのうえ、こちらへお返ししようにも
みな感染を怖がって使いの者も見つかりませんで。

元ネタ
「ロミウスとジュリエット」


THE TRAGICALL HIS-
torye of Romeus and Iuliet, writ-
ten first in Italian by Bandell,
and nowe in Englishe by
Ar. Br.

In ædibus Richardi Tottelli.
Cum Priuilegio.

イタリアの物語の翻案　1562年初版
アーサー・ブルック作の物語詩

このバージョンですでに
ペストについての言及あり

やはりペストの隔離で手紙が届かず
二人は死ぬ

シェイクスピアのオリジナリティは？

実際の病か、病の疑いか？

元ネタ
「ロミウスとジュリエット」：実際にペスト患者の家に行った
→隔離

シェイクスピア
『ロミオとジュリエット』：病人を見舞ったらペスト患者の
もとに行ったと疑われた　→隔離

「感染疑い」の持つ力　恐怖が人を動かす力

シェイクスピアのオリジナリティは？

マキューシオの呪い

ロミオの親友の死に際の言葉

「両家ともくたばるがいい！」（小田島雄志訳，1983年）
「どっちの家もくたばりやがれ！」（松岡和子訳，1996年）

これの原文は・・・？
“A plague a both houses!”　　**「両家にペストを！」**
３回言う

シェイクスピアのオリジナリティは？

「どっちの家もくたばりやがれ！畜生、犬、猫、ネズミがひっかいて人間さまを死に追いやるとはな！」

A plague a both your houses!
Zounds, a dog, a rat, a　mouse, a cat, to scratch a man to death!

ペスト菌を保有した動物による傷からの感染のイメージ

剣で刺されたときの言葉と　ペストのイメージが交差する

初演と初版と第二版

シェイクスピア自身が手を入れたとされる第二版

“A plague a both houses!”　　plagueの語を使っている

海賊版として出版　だが初演の姿を残す初版

“A pox of your houses”

初演では “plague”を避けて “pox”（天然痘または梅毒）を使った
「天然痘」も「梅毒」も凶悪な病だが
性感染症としての梅毒は揶揄としても用いられたとの研究あり

初演と初版と第二版

初演では「ペスト」の語は使えなかった・・・？
（記憶が生々しいから？）

しかしシェイクスピア本人の意向としては
「ペスト」の方を決定版としたかった

★なぜ？

個人的な解釈：その方がリアリティがあるから？
→しかし　そのリアリティゆえに初演では使えなかった

いずれにせよ

ロミオとジュリエットは
もしペストのパンデミックがなければ死ななかったかもしれない

彼らもペスト関連死と言えるのではないか。

また　マキューシオの呪いも
ただの慣用句ではなく重みのあるもの

人間を超えた力による破滅の力　としての疫病のリアリティ

画像の出典

- 出典を記していない画像はすべてWikiComonsより

英国・アイルランド文学とパンデミック：ペストとスペイン風邪を中心に

その３　スペイン風邪について

城西大学　語学教育センター
伊東裕起

スペイン風邪

（1918年
インフルエンザ
パンデミック）

スペイン風邪

（1918年
インフルエンザ
パンデミック）

呼称について

発祥はスペインではない　病名に地名を付けるのは不適切

インフルエンザであって「風邪」ではない

しかし今回の講座では、あくまで歴史的用語として
「スペイン風邪」の呼称を用いさせていただきます

スペイン風邪
（1918年インフルエンザパンデミック）とは

A型インフルエンザ（H1N1亜型）の一種によるパンデミック

第一次大戦中に流行開始　第一報告はアメリカ　→検閲
中立国だったスペイン　情報を出す　→「スペイン風邪」の名に

現在は「1918年インフルエンザパンデミック」などと呼ばれる

世界人口（18億-19億）の３割近くが感染
25歳～35歳の死亡率が高い
死亡者数は4,000万（WHO)-1億人以上　歴史上最悪規模の疫病

スペイン風邪の原因は？

1933年　インフルエンザウイルスの発見
1997年　患者の遺体からスペイン風邪のウイルスを分離成功

つまり当時は何が原因の病か分かっていなかった

19世紀末
リヒャルト・ファイファー「インフルエンザ桿菌（かんきん）」
（通称「ファイファー桿菌」）発見
→ワクチンを作るも効かず

イギリスやアイルランドの一般人：ドイツ軍による攻撃では？
第一次大戦で放置された遺体から発生した病では？

スペイン風邪を治すために

・「ファイファー桿菌」のワクチン
→効かない

・キニーネ（マラリアの特効薬）
→不明

・ウイスキー
→アイルランドで最も用いられたもの：安眠効果？

その他多くの怪しげな薬や民間療法、加持祈祷が流行

スペイン風邪の流行

第一波　1918年夏　感染力・高　死亡率・低

第二波　1918年秋～冬　感染力・低　死亡率・高

第三波　1919年春

（日本の場合は「前流行」として1918年　第一波
「後流行」として1920年　第二波　）

パンデミックの風景の誕生

同じ感染症が世界で同時に流行

マスク、手洗い、消毒の推奨、人混みの回避

風邪のような症状があったら出歩かないこと

学校の休校、興行の中止

**ワクチン（当時は「インフルエンザウイルス」が未発見なので
効果はなかったのですが）の是非について論争**

加持祈祷の流行

「赤」「茶」「青」「黒」

「ヘリオトロープ・チアノーゼ」は死の兆し

https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC7106411/figure/fig2/

「血を吐いておぼれ死ぬ」

多い症状：肺からの出血　吐血で窒息する事例多数

スミソニアン博物館　スペイン風邪の犠牲者の肺

https://www.smithsonianmag.com/history/journal-plague-year-180965222/

エドヴァルド・ムンク

「スペイン風邪に罹患した自画像」
(1919年)

著名人の感染者

日本首相　原敬
スペイン国王　アルフォンソ13世
イギリス首相　ロイド・ジョージ
アメリカ大統領　ウッドロー・ウィルソン
アメリカ海軍次官　フランクリン・ルーズヴェルト
実業家　ウォルト・ディズニー
インド独立運動家　マハトマ・ガンディー
作家　フランツ・カフカ
作家　ギヨーム・アポリネール（亡くなる）

イギリスの作家では

T. S. エリオット（感染、後遺症に苦しむ）

ヴァージニア・ウルフ（感染、後遺症に苦しむ）

D. H. ロレンス（感染、後遺症に苦しむ）

コナン・ドイル（息子と弟を失い　心霊主義への傾向を強める）

など

日本の作家では

芥川龍之介（二回感染、実父を亡くす）
久米正雄（感染）
島村抱月（感染して亡くなる。松井須磨子の後追い自殺）
与謝野晶子（感染　流行中の出産）
斎藤茂吉（感染　後遺症に苦しむ）
永井荷風（感染　後遺症に苦しむ）

など

後遺症を訴える記述は多いが

感染者の多くが「後遺症」を訴える（病理学的には不明？）

ヴァージニア・ウルフ　長期間苦しむ

代表作『ダロウェイ夫人』スペイン風邪の後遺症に苦しむ女性

「嗜眠性脳炎（エコノモ脳炎）」

スペイン風邪の時期に流行　関連性は不明

最も忘れられたパンデミック

死亡者数は4,000万（WHO)-1億人以上

当時人口5000万の日本で2300万人が感染　38~45万人が死亡
（現在の日本の人口1億2000万に単純計算：100万人前後が死亡？）

死者の多くが働き盛り

しかし日本も世界も　この疫病を忘れていた

なぜ忘れられていたか？
（アメリカの場合：クロスビーの分析）

・第一次大戦の方に関心が向いていた
　→戦争より多くの死者を出したが、戦争の一部扱いされた部分も

・多くの人が感染したが、死亡率が高かったわけではない
　→結果として多くの命を奪ったが、皆が亡くなったわけではない
　　→風邪ではないが「風邪」扱い

・流行が短期間で終わった（約２年）

・著名人の命を奪わなかった（とは言えないのでは？感染は多数）

なぜ忘れられていたか？
（日本の場合：速水の分析）

（クロスビーの挙げた理由に加えて）

・大正時代中期という日本史上の転換期
（大正デモクラシー、工業化、列強の一員となったことなど）

・その後　1923年　関東大震災　昭和期の戦争の時代　が続いたこと

なぜ忘れられていたか？
（アイルランドの場合：ミルンの分析）

（クロスビーの挙げた理由に加えて）

・アイルランドの独立期の激動の時代であったこと

1918年　総選挙　1919年　独立戦争
1920年　北アイルランド議会認可　1921年　北アイルランド議会設立
1922年　アイルランド自由国建国　　内戦勃発

・もともと病気による死亡率が高かったこと

・第一次世界大戦について論じることがタブー視されていたため
（英国軍への従軍者の多さ）

同時期のヨーロッパは・・・

1917年　ロシア革命
1918年　ドイツ革命
1918～　スペイン風邪（全世界で5億人が感染、4000万～1億死亡）
1919年　ドイツ　スパルクス団蜂起
（共産主義者の蜂起）
1922年　ロシア内戦　シベリア出兵
1922年　イタリア　ムッソリーニ　ローマ進軍
（ファシスト党の政権樹立）
1923年　ドイツ　ヒトラー　ミュンヘン一揆

共産主義かファシズムか　二極化しつつ混迷しゆく世界

「モダニズム文学」とスペイン風邪

2020年にエリザベス・アウトカが*Viral Modernism*で関係性を指摘

「モダニズム文学」：第一次大戦後に起こった前衛芸術運動。
既存の価値観が破壊された時代に新たな表現を模索

代表作：T. S. エリオット『荒地』
ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』
ジェイムズ・ジョイス『ユリシーズ』
W. B. イェイツ「再臨」など

アウトカ：戦争だけではなく、スペイン風邪も影響したのでは？

すべてがスペイン風邪のせいと言い切るのは乱暴だが・・・

第一次大戦の影響は論じるのに
それ以上の死者を出した疫病に触れないのは　確かに不十分かも

スペイン風邪とアイルランド文学

今回はイェイツ「再臨」（執筆1919、発表1920）

ドナヒュー『星のせいにして』（執筆2019、発表2020）

を見てみたいと思います。

画像の出典

- 出典を記していない画像はすべてWikiComonsより

英国・アイルランド文学とパンデミック：ペストとスペイン風邪を中心に

その４　W. B. イェイツ「再臨」

城西大学　語学教育センター
伊東裕起

詩「再臨」

画像はアンソニー・ヴェントゥラによるアートワーク
The Graphic Canon. Vol 3. Seven Stories Press, 2013.

https://www.publishersweekly.com/pw/by-topic/industry-news/tip-sheet/article/57883-15-classic-books-illustrated.html

詩「再臨」

イェイツの最も有名な詩のひとつ。
1920年に書かれたこの詩は
100年後、新型コロナウイルスで揺れる世界で
よく引用され、語られた
そしてウクライナ戦争関係でもよく引用されている

W. B. イェイツとは

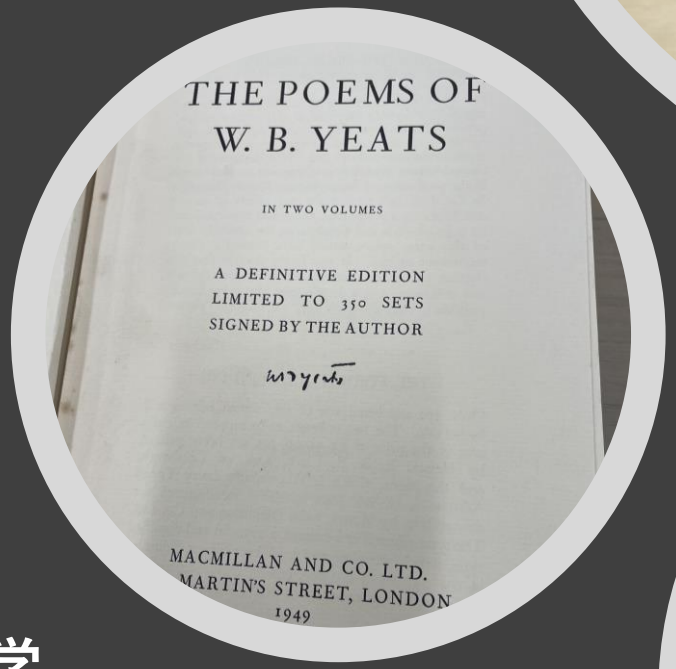
W. B. イェイツとは

アイルランドの詩人、劇作家　1923年ノーベル文学賞
アイルランド文芸復興運動のリーダー
アイルランド自由国上院議員

「20世紀における英語圏の最大の詩人のひとり」
（T. S. エリオット）
「イェイツが国を発明し、それをアイルランドと呼んだ」
（デニス・ドナヒュー）

The Poems of W. B. Yeats (1949)

死ぬ間際のイェイツが校正した最終版
サイン入り350部限定出版
第二次大戦勃発のため出版できず、
戦後出版

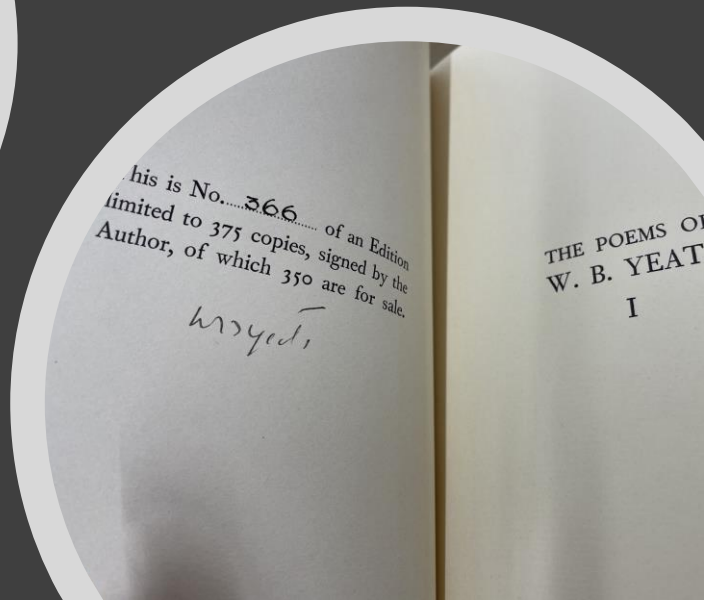

THE POEMS OF
W. B. YEATS

IN TWO VOLUMES

A DEFINITIVE EDITION
LIMITED TO 350 SETS
SIGNED BY THE AUTHOR

W B Yeats

MACMILLAN AND CO. LTD.
MARTIN'S STREET, LONDON
1949


his is No. 366 of an Edition
limited to 375 copies, signed by the
Author, of which 350 are for sale.

W B Yeats

THE POEMS OF
W. B. YEAT
I

日本の大学では城西大学と実践女子大学の２校が所蔵

城西大学のものは非売品ナンバー(366)

詩「再臨」

https://www.publishersweekly.com/pw/by-topic/industry-news/tip-sheet/article/57883-15-classic-books-illustrated.html

「再臨」とは

『ヨハネの黙示録』などに記された、キリスト教の考え
この世の終わりにキリストが天から再臨し
この世を消し去り、生者と死者を裁く、という考え

その再臨の兆しとして、
戦争や疫病、天災など、いわゆる黙示録の災いが起こる、
とされている

イェイツの「再臨」とは

キリストではなく、
反キリストたる荒々しい野獣が生まれる

現在の文明とは逆の文明が生まれる

天から来るのではなく「生まれる」
（娘の出産のイメージも）
キリストが生まれたベツレヘムで生まれるのか？

一般的な解釈としては・・・

イェイツの独自の神話体系もあるが

当時の世界情勢

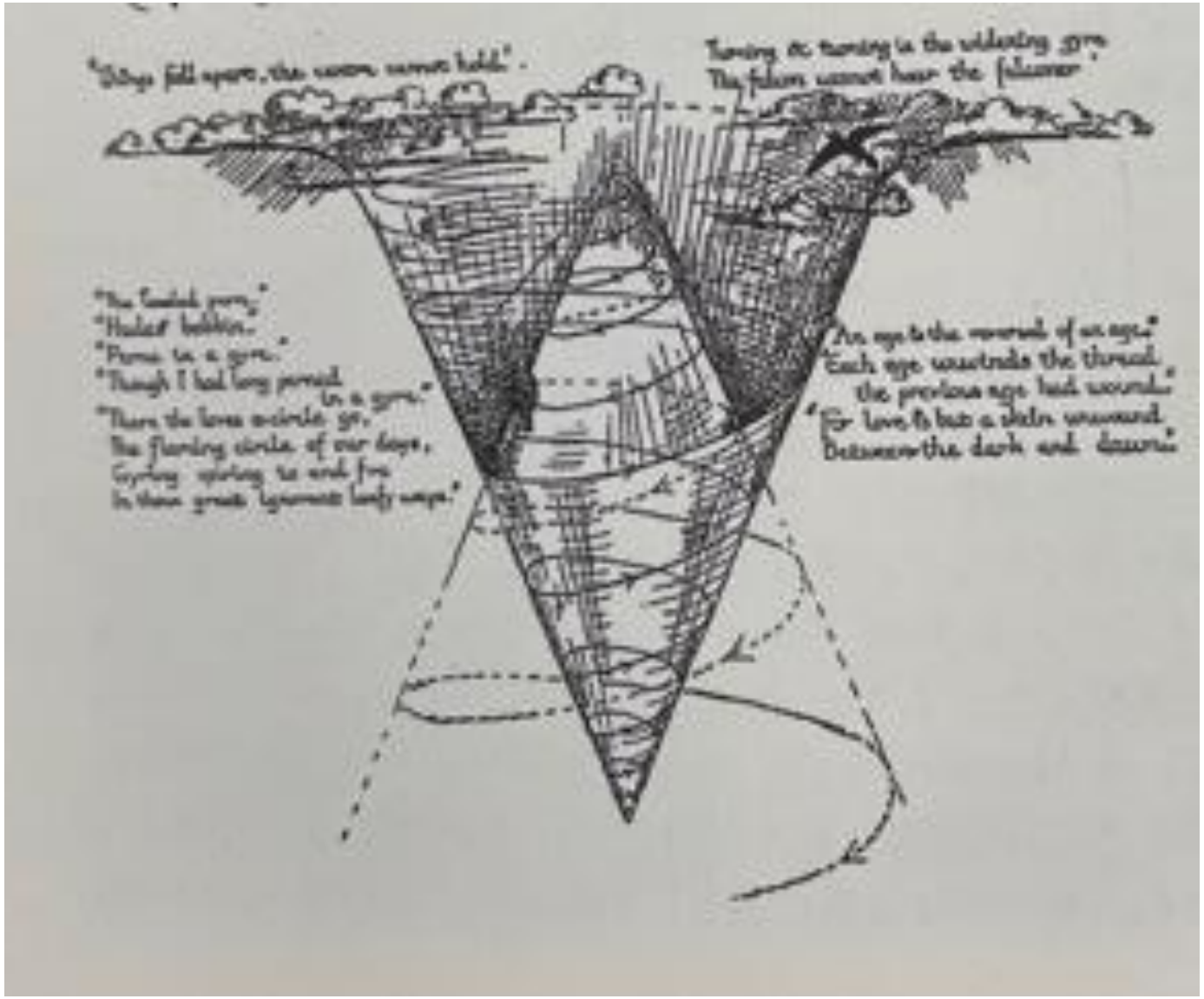
ファシズムの誕生の予感、と解釈される傾向

先ほども触れましたが
同時期のヨーロッパは・・・

1917年　ロシア革命
1918年　ドイツ革命
1918～　スペイン風邪（全世界で5億人が感染、4000万～1億死亡）
1919年　ドイツ　スパルクス団蜂起
（共産主義者の蜂起）
1922年　ロシア内戦　シベリア出兵
1922年　イタリア　ムッソリーニ　ローマ進軍
（ファシスト党の政権樹立）
1923年　ドイツ　ヒトラー　ミュンヘン一揆

共産主義かファシズムか　二極化しつつ混迷しゆく世界

「ガイアー」



T. R. Henn *The Lonely Tower.* Cox and Wyman, 1950より

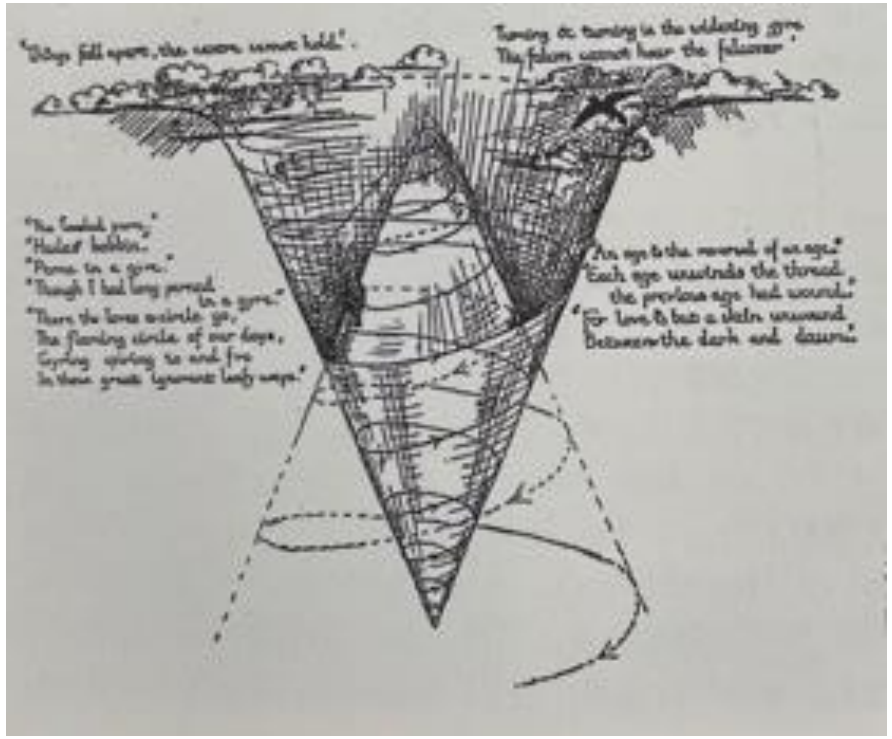
「ガイアー」

イェイツの個人神話の用語

妻ジョージの自動筆記で生まれた奇書『ヴィジョン』で詳細に解説

この世のすべてを二重らせんで表現するもの

「ガイアー」



始原性のガイアー
（民主主義的・キリスト教）

が衰え

対抗性のガイアー
（貴族主義的・ギリシア的）

が力を増す時代

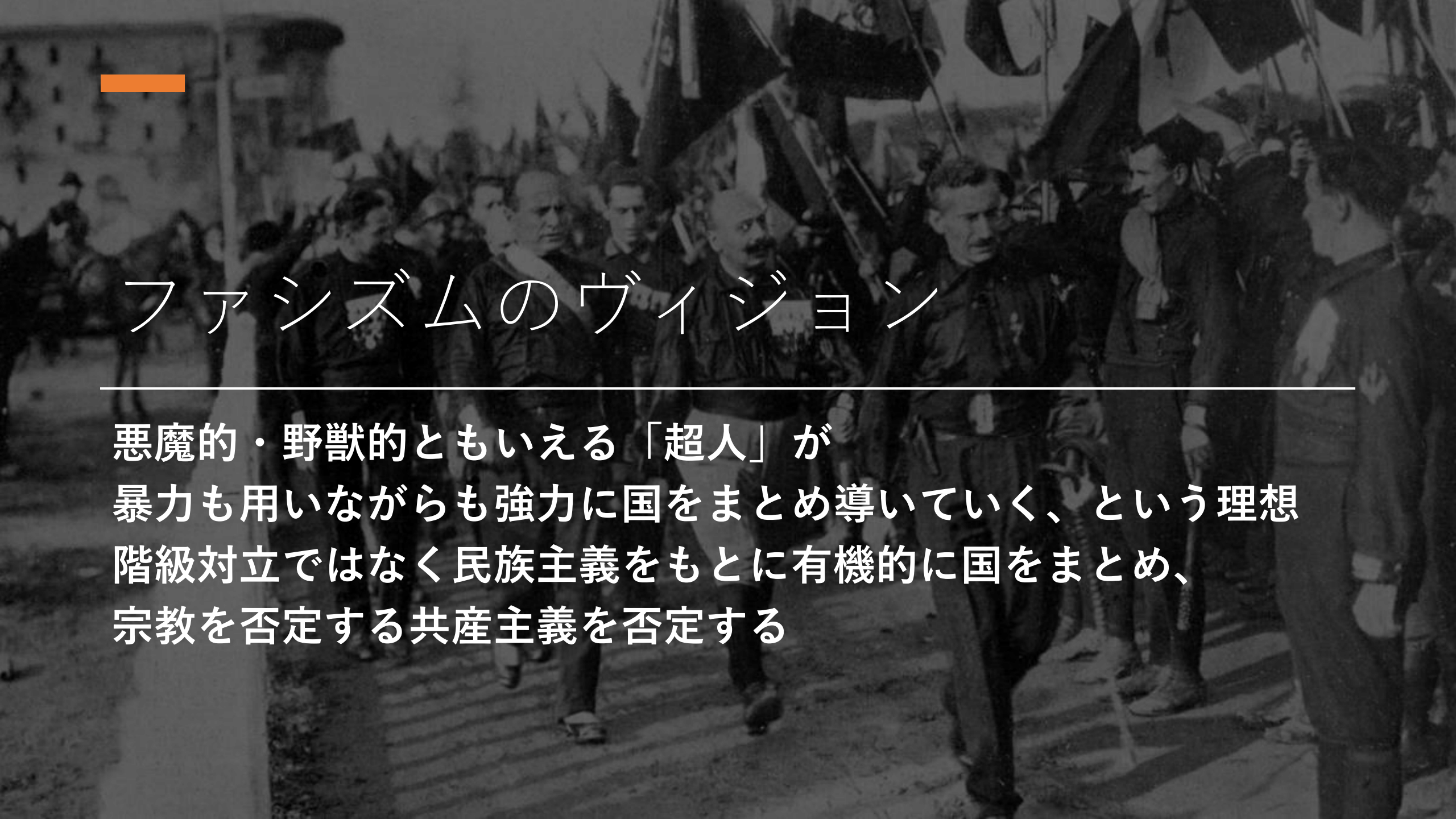
荒々しい獣

反キリストの象徴

頭は人　砂漠　スフィンクス＝知性の象徴

大衆的でない、キリスト教的でない、
古代ギリシアやローマのような
偉人の知性で導かれる文明の到来　を象徴

→ファシズム　として具現化



ファシズムのヴィジョン

悪魔的・野獣的ともいえる「超人」が
暴力も用いながらも強力に国をまとめ導いていく、という理想
階級対立ではなく民族主義をもとに有機的に国をまとめ、
宗教を否定する共産主義を否定する

ファシズムの登場

1920年　詩「再臨」発表
1922年　イタリア　ムッソリーニ　ローマ進軍
（ファシスト党の政権樹立）
1923年　ドイツ　ヒトラー　ミュンヘン一揆

同時期には
共産主義も・・・

1924年スターリン政権

個人崇拝と大粛清

アイルランドでは

当時の知識人は
ファシズムか共産主義か
どちらかを選ばなければいけなかった

1932年
反自由国・共和国派のIRAから
自由国派を守るために結成された
「青シャツ隊」がファシスト化

イェイツも一時期関心を持つ→失望

「荒々しい獣」とアマビエ

従来見落とされていた視点

スペイン風邪の影響

アイルランドにおけるスペイン風邪

第一次大戦、独立戦争や南北分断、内戦やその後の混乱で
見落とされがち・・・だが　それ以上にスペイン風邪で死者

マーシュ(2021）の推計で32917人の死者　（当時人口約400万人）

貧富を問わずウイルスは襲ったが
特に劣悪なスラムや繊維工場などで感染拡大

第一次大戦の戦勝パレード　工場と村を往復する繊維産業

イェイツとスペイン風邪

本人は未感染だったが・・・

ニューヨークにいた父親が感染して危篤（生存）

初子を妊娠中の妻が感染して危篤（生存）

劇場ビジネスの苦境

アベイ座とスペイン風邪

https://artsandculture.google.com/partner/abbey-theatre

アイルランド文芸復興運動の中心
イェイツらが設立・運営に関わる

ダブリン当局　劇場や映画館の自粛要請

→多くの劇場は拒否
　　一日二回の消毒
　　子供の観劇禁止で上演

おそらくアベイ座もこの運用

アベイ座とスペイン風邪

しかし・・・スペイン風邪当時の記録なし

・取締役会記録ノートにもなし

・観劇記録を付けていたファンの日記に記録なし

・イェイツの書簡にもなし

アベイ座に関する多くの研究書にも
スペイン風邪の最中のアベイ座について言及なし

予想：
独立戦争や内戦中も上演を続けた劇場　おそらく消毒しながら上演では

父と妻の危篤

出典：杉山寿美子『祖国と詩　W・B・イェイツ
国書刊行会、2019年より

父と妻の危篤

1918年11月　父ジョン（当時79歳）がニューヨークで危篤と電報
　→妹が向かう　病院を拒否　個人看護師をつける

妻　ジョージ（当時27歳：妊娠中）が危篤
　かなり危機的状況（12月半ばまで）：24時間個人看護

スペイン風邪の特徴：25歳～35歳の致死率が高い
　妊婦の場合　合併症発生率約50％増

かつての想い人の来訪

1918年「＜ドイツの陰謀＞捏造事件」

英国治安当局　アイルランド独立運動家150名を逮捕

モード・ゴン　逮捕・拘留・アイルランド上陸禁止
→脱走　赤十字の看護婦に変装して上陸

イェイツの家（もとはモードの家）に助けを求めた

http://afflictor.com/tag/maud-gonne/

かつての想い人の来訪

かつてのイェイツなら扉を開けたかも？

しかし

今は　妻が危機的状況
もしモードを家に入れれば警官が来るかもしれない

扉を挟んで口論

→後に民族主義者から愛国的でないと批判

http://afflictor.com/tag/maud-gonne/

「血潮を吐いておぼれ死ぬ」

多い症状：肺からの出血　吐血で窒息する事例多数

スミソニアン博物館　スペイン風邪の犠牲者の肺

https://www.smithsonianmag.com/history/journal-plague-year-180965222/

“blood-dimmed tide is loosed”

「再臨」の詩行に残る　スペイン風邪の症状

差し迫る出産とその不安のイメージ

妻の感染と出産の経験が　創作の裏にあるのではないか

詩集の中での配列
（イェイツでは重要）

「悪魔と獣」：美術館に行く詩

That crafty demon and that loud beast
That plague me day and night
昼となく夜となく病ませ苦しめる
あの狡猾な悪魔と吠え猛る獣

「再臨」

「我が娘への祈り」暴風が吹き荒れる中
娘の将来に思いを馳せる

社会不安と予言獣

件、アマビエ、神社姫など

件（くだん）

おそらく日本で最もメジャーな予言獣

疫病や戦乱を予言して死ぬが
姿を描き持てば助かるという

民衆が噂を広める道具として
社会不安で儲ける道具として
声にならない不安の具現化として

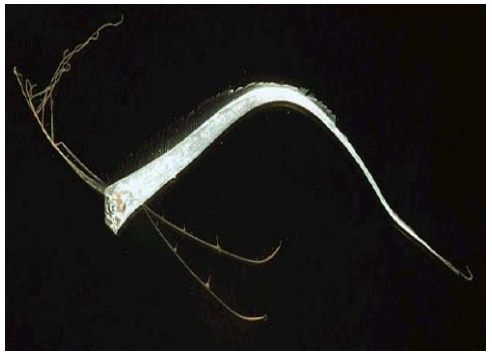
アマビエ、神社姫など

正体はリュウグウノツカイ？

アマビエ

神社姫（1819年出現
コレラを予言）

アマビコ（三本足の猿）



件のように疫病を予言するが
姿を描き持てば救われるとする

荒々しい獣

病を目にした人間の想像力

啓示を告げる　異形の存在

「再臨」の獣は
ファシズムの象徴として解釈されてきたが
それだけにとどまらない
少なくとも病のイメージも含まれている

それでは、読んでみましょう

画像の出典

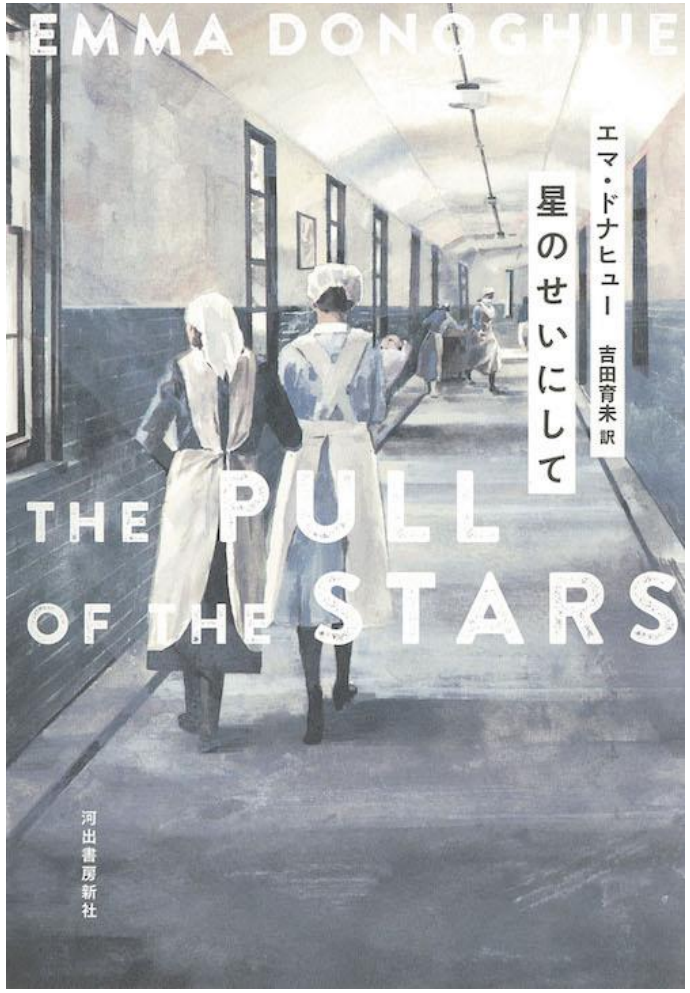
- 出典を記していない画像はすべてWikimediaComonsより

英国・アイルランド文学とパンデミック：ペストとスペイン風邪を中心に

その５　『星のせいにして』

城西大学　語学教育センター
伊東裕起

『星のせいにして』

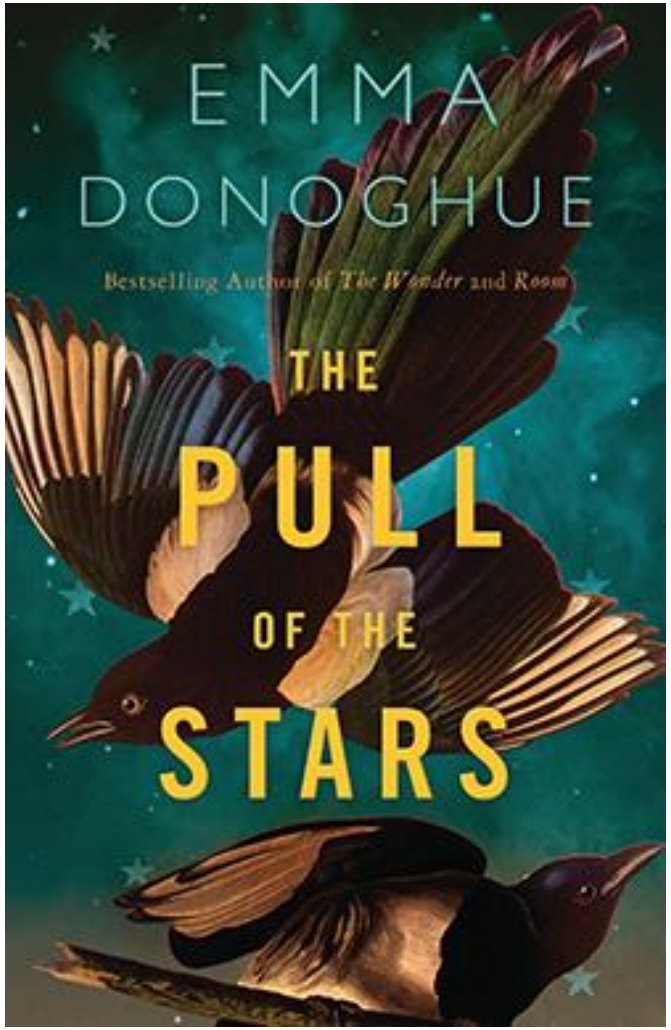


吉田育未　訳
『星のせいにして』
河出書房新社、2021年

原書

The Pull of the Stars.
New York: Picador, 2020.

https://www.emmadonoghue.com/books/novels/the-pull-of-the-stars.html



https://www.kawade.co.jp/np/isbn/9784309208411/

エマ・ドナヒュー

エマ・ドナヒュー（1969-）

アイルランド文学者デニス・ドナヒューの娘。
学者でもある

アイルランド生まれだがカナダ移住
パートナーと暮らす

『星のせいにして』
（執筆2019、発表2020）

原題 *The Pull of the Stars*（星がひっぱること）
古来、星がもたらす悪影響が「インフルエンザ」
と呼ばれた

宣伝文
「スペイン風邪が猛威を振るう、1918年、ダブリン。
小さな産婦人科病室で、彼女たちは “生命”のために闘い続けた――」

「匂い、汚れ、暴力、差別、繰り返される死の感触。
この小説は、今を生きる私たち看護師そのものだ。」

舞台は

1918年10月31日～11月2日
第一次大戦中　スペイン風邪パンデミック中　ダブリン
産婦人科発熱病棟　＜産科/発熱＞病棟

戦争で物資がない　人員もいない　治療法もない

様々な差別（女性、未婚、孤児、など）が複合的に折り重なる

極限状態における女性たちの絆

主な登場人物

主人公：ジュリア・パワーズ（29―30歳）正看護師
弟ティムと二人暮らし　弟ティムは戦争神経症で声が出せない

ブライディ・スウィーニー：青白い、そばかす顔の赤毛。22歳くらい。
孤児。教会の施設で虐待されていた（現在も）　助手として呼ばれる

キャスリーン・リン医師：実在の人物。
1916年復活祭蜂起で反乱軍で戦った医師。徴兵反対運動で追われている。
史実では翌年にアイルランド初の小児科＆インフルエンザ病院を開設

キャスリーン・リン（1874－1955）

アイルランド内で医学教育を終えた
最初の女性医師
女性参政権運動家　独立運動家
1916年復活祭蜂起で医官・大尉

1918年インフルエンザの治療活動に関わる
（史実：逮捕されるがダブリン市長が介入
治療を継続できることに）
1919年「聖ウルタン病院（小児科）」を開設

女性パートナー　マグダレーン・フレンチ＝アレンと
共に暮らした

「赤」 「茶」 「青」 「黒」

各章の名前が症状の悪化の様

https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC7106411/figure/fig2/

主な患者たち

デリア・ギャレット：裕福なプロテスタント。

イタ・ヌーナン：33歳。7人の子供の母（11回出産、7人存命）。片足が不自由。TNT火薬工場で働いている。夫はロックアウトで無職→軍隊に断られ→手回しオルガンを街で演奏している せん妄が激しい

メアリー・オーラヒリー：17歳。性に関する知識に乏しい

オナー・ホワイト：29歳。信心深い。禁酒主義者

引用５

「規定の小さな文字で両側びっしり埋められている彼女の記録の終わりを、もしも私が書くことができたなら、骨の髄まで疲労、と書いただろう（中略）物心ついた時からずっと崖っぷちを歩いてきた。インフルエンザは彼女をちょいと指先で押しただけ。」

弱者への最後の一押し　としての伝染病

主な患者たち

デリア・ギャレット：死産

イタ・ヌーナン：出産中に子どもともに死亡

メアリー・オーラヒリー：女児を出産

オナー・ホワイト：出産中に危険な状態となり、
主人公ジュリアが輸血。男児（口唇裂傷あり）を
出産。しかし間もなく死亡

引　用６

「見上げるとおおぐま座が目に入った。彼女に教える。イタリアではね、病気は全部、星たちから受ける影響のせいだと思われていた———だから、インフルエンザって呼ばれてるんだって。」

特別な絆

戦場のような極限状態で深まる絆

ジュリアとブライディはお互いに恋心を抱くように

夜中に病院の屋上で星を見ながら語り合い　キスをする

The Pull of the Stars 「星のせいにして」

引用７

「ばい菌のせいにして、埋葬されない死体のせいにして、
戦争の土煙のせいにでも、
気まぐれな天気や風向きのせいにでも、
万能な神のせいにでもすればいい。
そうだ、星々を責めればいい。
だけど、死んだ人たちを責めるのはやめて。
だって、望んでそうなった人なんて、いないんだから」

引用８

私たちが生まれたその日に、それぞれの将来がもう決められているなんて、私は今まで信じたことがない。**星々が何かを教えてくれるならば、その点々は私たちがつなぎ、私たちが生きることで、運命が描き出されていく。**

でも、ギャレット夫人の赤ちゃんは、死んだまま生まれ、他にもたくさんの命の物語が、始まる前に終わってしまった。そして、生まれてきても、長い悪夢の中に生きる人もいる。ブライディやホワイト夫人の赤ちゃんのように――そんなこと、誰が命令できるのだろう。命令せずとも、そんな物語を許してしまえるのは誰？

The Pull of the Stars 「星がひっぱること」

それは神様のような星の導き？
勝手に人間の運命を操り、生き死にを定めること？

でも人間にどうしようもできないことは？
「星のせいにして」やれることをやるしかない？

緊急洗礼

患者オナー・ホワイトが急死
子どももしかしたら長くないかもしれない

ジュリアが輸血した母親から生まれた子

ジュリアとブライディ　共に名親として　その子に緊急洗礼

バルナバ（慰めの子、の意）　と名付ける

急　変

ブライディが急に倒れる　病室でスペイン風邪に感染していた

リン医師が反逆者として逮捕される

ブライディ、ジュリアの腕の中で亡くなる

亡骸に多くの虐待の傷を見つけるジュリア

親を失ったバルナバは

ブライディのように教会の孤児院で育てられることに
　しかし虐待されるかもしれない

ジュリアはその子を引き取り育てるという
（ある意味、ブライディとの間の子として）

喋れない弟との間の子、と呼ばれるかもしれない

しかしジュリアは病院を辞め　その子を抱いて街の闇の中へ
「そうして私は彼を抱えて、世界の終わりのような通りを進んでいく」

「病は文学の題材にならない」？

人は冒険を語りたがるが、病を語りたがらない

しかし「生病老死」、病も人間の宿命、人間の一部とも言える

人は病を忘れやすく、病についての記述は抜け落ちやすい

しかし、記憶や記録から抜け落ちても、
文学作品の表面に見えなくなっても、深層に残っていることも。

また、後の時代の人がその声をくみ取り、新たな文学作品にすることも

文学だからこそ

・病の直接の被害者ではない　間接的な犠牲者を扱うことができる
　『ロミオとジュリエット』

・うまく言葉にできないイメージとして病の記憶を扱うことができる
　「再臨」

・時代を隔てて病を取り上げ　現代的なものとして扱うことができる
　『星のせいにして』

病のように
「見えないもの」を扱う文学だからこそ

記録に残らない感情や
記憶から抜け落ちたものを伝えることができる
また時代を超えて、テーマとして蘇らせることもできる

それが　病から逃れられない人間が手にした「文学」というもの

画像の出典

- 出典を記していない画像はすべてWikiComonsより

引用作品テクスト

ウィリアム・シェイクスピア　著　松岡和子　訳『ロミオとジュリエット（ちくま文庫）』筑摩書房、1996年。

安西徹雄 石井正之助 編　岩崎宗治 編注『ロミオとジュリエット』大修館書店、1988年。

ウィリアム・バトラー・イェイツ　著　高松雄一　訳『対訳イェイツ詩集（岩波文庫）』岩波書店、2009年。

William Butler Yeats. *The Poems of W. B. Yeats*. 2vols. London: Macmillan, 1949.

エマ・ドナヒュー　著　吉田育未　訳『星のせいにして』河出書房新社、2021年。

Emma Donoghue. *The Pull of the Stars*. New York: Picador, 2020.

参考文献

Marsh, Patricia. *The Spanish Flu in Ireland: A Socio-Economic Shock to Ireland, 1918–1919*. New York: Palgrave, 2021.

Milne, Ida. *Stacking the Coffins: Influenza, War and Revolution in Ireland, 1918-19*. Manchester: Manchester UP, 2018.

Outka, Elizabeth. *Viral Modernism: The Influenza Pandemic and Interwar Literature*. New York: Columbia UP, 2019.

Spinney, Laura. *Pale Rider: The Spanish Flu of 1918 and How It Changed the World*. London: Vitage, 2017.

参考文献

石塚久郎　監修　『疫病短編小説集』平凡社、2021年。

内海孝『感染症の近代史 (日本史リブレット)』山川出版社、2016年。

ヴァージニア・ウルフ　著　川本静子　編訳『病むことについて（新装版）』みすず書房、2020年。

アルフレッド・W・クロスビー　著　西村秀一　訳・解説『史上最悪のインフルエンザ：忘れられたパンデミック（新装版）』みすず書房、2020年。

国立感染症研究所「インフルエンザ・パンデミックに関するＱ＆Ａ」国立感染症研究所、2006年。

国立感染症研究所「ペストとは」国立感染症研究所、2019年。

高橋敏『江戸のコレラ騒動（角川ソフィア文庫）』角川書店、2020年。

鶴田学「感染症の時代に読み直す『ロミオとジュリエット』」『英文学研究（支部統合号）』14 巻（2022年）、 231-239頁。

参考文献

石塚久郎　監修　『疫病短編小説集』平凡社、2021年。

ヴァージニア・ウルフ　著　川本静子　編訳『病むことについて（新装版）』みすず書房、2020年。

アルフレッド・W・クロスビー　著　西村秀一　訳・解説『史上最悪のインフルエンザ：忘れられたパンデミック（新装版）』みすず書房、2020年。

鶴田学「感染症の時代に読み直す『ロミオとジュリエット』」『英文学研究（支部統合号）』14 巻（2022年）、 231-239頁。

ダニデル・デフォー　著　武田 将明 訳『ペストの記憶 (英国十八世紀文学叢書)』研究社、2017年。

永江朗　編『文豪と感染症：100年前のスペイン風邪はどう書かれたのか』朝日新聞出版、2021年。

速水融『日本を襲ったスペイン・インフルエンザ：人類とウイルスの第一次世界戦争』藤原書店、2006年。

道行千枝「シェイクスピアと疫病再考ー『ロミオとジュリエット』と『アテネのタイモン』を比較してー」『福岡女学院大学紀要 人文学部編』 第32号（2022年）、1－28頁2022年。